

「不整脈と症状」

医療法人 あべ内科循環器科クリニック
院長 安部 晋之介

心臓は安静にしている時は規則的に1分間に60～90回、1日に約10万回動いていますがこのリズムが乱れるのが不整脈です。種類は大きく分けて脈が飛ぶ期外収縮、脈が遅くなる除脈、脈が速くなる頻脈の3つがあり、それぞれの中に心配のいらぬものから治療の必要な怖いものまでいろいろあります。

では、どのような症状が出た場合が怖い不整脈なのでしょう？以下にこれを重症の順に列挙してみました。

1. 急にふうっとしたり、目の前が真っ暗になる。または意識がなくなり失神する。・・・この場合は一時的に心臓が止まっているか、逆に極端な頻脈の可能性あります。

2. 1分間に40以下の脈拍数で動作時に息切れを感じる。・・・この場合は極端に脈が遅く、心不全を起こしている可能性があり、ペースメーカーが必要なこともあります。

3. 突然始まり突然止まる動悸で、脈拍数は1分間に120以上で規則的な場合と全く不規則な場合があります。ひどい場合は血圧が下がり、脈が触れにくくなり、息苦しさや冷汗がでます。

以上のような症状を自覚したことがある方は早急な検査、治療が必要ですから早めに病院を受診しましょう。

ここで前述の3に属する心房細動は高齢者では10人に1人位の割合で発生すると言われています。これには慢性のものがありますが、特に大切なことは、この不整脈はどちらの場合でも心臓の中に血栓ができやすく、それが脳に飛んで脳梗塞(脳塞栓)を起こす危険性があるということです。ですから抗不整脈薬以外に血液を固まりにくくする薬を服用してもらうことがあります。

次に不整脈の検査方法を簡単に説明します。普通は外来で心電図、胸部X線、血液検査(甲状腺機能を含む)、24時間心電図(ホルター心電図とも呼ばれ、不整脈の種類、数、症状との関係、夜間の変化、狭心症はあるか等が分かる)、運動負荷心電図(運動による不整脈の変化、狭心症はあるか等が分かる)、心臓超音波(心臓の形態、機能の異常等が分かる)を行い、それでも不十分な場合は入院して電気生理学的検査を行い治療の必要性や治療方法の決定、治療効果の判定をします。現在、不整脈治療法の進歩はめざましく、たとえ怖いタイプでもその多くが治せるようになっています。今まで症状のお話をしてきましたが、症状がなくても不整脈のある方はその原因(特に心臓病)そして治療の必要性の有無を必ず1度は検査で確認してもらうことが重要です。